

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 3 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471900518		
法人名	社会福祉法人 慈照会		
事業所名	グループホームふの慈照園		
所在地	広島県三次市布野町上布野 1 1 0 5 9 - 2 (電話) 0 8 2 4 - 5 4 - 7 1 1 1		
自己評価作成日	平成28年2月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3471900518-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年3月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念でもある「笑顔・応援・安心」をもとに、利用者、家族の方に家庭的な雰囲気の中で、安心して生活してもらえる事業所を目指しています。運営母体でもある医療法人微風会と常に連携し、認知症の進行を予防するため、専門医への定期的な受診、および健康管理に努めている。医療法人微風会が実施する認知症講演会等に参加し、認知症に関する知識を深め、職員の質の向上に取り組んでいます。また地域のとの交流に関し、地域の行事に参加したり、通学路の清掃等を実施し、関係を深めるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームふの慈照園は、市の委託を受けて設立、運営が為されているので、市や社会福祉協議会との連携が密な事に加え、関連の介護施設・医療機関も多数あり、それらの社会資源を有効に活用されている。加えて、当事業所は行政と共に「町づくり」の為に、その役割の一端を担った事業所運営に取り組まれている。また、「ふの慈照園」では、介護関連の知識・技能の習得に加え、「慈悲の心」を深く心に刻む事を職員教育の中に取り入れられ、その結果が利用者、職員の方々の柔らかな姿に反映している。古き良き「隣組」の風土の残る環境の下、このたび新しい管理者を迎えたこの節目を活かし、事業所全体をもう一度見直して改善点を話し合い、地域に根差しながら、更なるサービスの質の向上に取り組まれている力強さと新鮮さが伝わってきた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を基に、グループホームふの慈照園独自の基本理念を策定し、毎日の朝礼で唱和確認している。	開設時に、全職員の話し合いで決められた基本理念は、随所に掲示され、毎朝の朝礼で唱和する事で、その浸透を図っている。又、理念に基づいた行動目標を毎年募集して、最優秀作を当年度の行動目標と定め、他の提案は各月の「接遇向上活動の標語」として採用されている。この取り組みが職員にとって、理念の一層の理解と実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の奉仕活動（市道の清掃と地域の通学路清掃）や行事（秋祭り・とんど）に参加し、また地域の保育所の交流会に参加している。	地域の諸行事参加や保育所との交流会等を通じて、事業所と地域住民との親密な交流が為されている。昔ながらの、地域住民間の助け合い精神が受け継がれている布野町で、この度「布野安心ネットワーク会議」が立ち上げられ、地域住民と事業所・行政が一体となって、「住みよい街づくり」に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	医療法人微風会が主催する、認知症講演会の参加を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の意見を聴いて、サービスの向上や地域防災などの意見を取り入れ、サービス向上に取り組んでいる。入居者の利用状況等を報告している。地域の行事等の日程を聞いて、参加している。	定期的に行われる運営推進会議には、市職員、社会福祉協議会の職員、民生委員、地域住民が参加され、事業所の近況報告や認知症、感染症、介護保険制度、地域の高齢者世帯の現況等、情報の提供や意見交換が行われ、事業所のサービスの質の向上や地域貢献に資するよう話し合われている。	行政、社会福祉協議会からは毎回、複数の参加が見られ、加えて民生委員、地域住民の方々も熱心に取り組まれている。反面、殆どの家族が広島市、三次市在住にて困難な状況下にある。家族の会議出席に関して、一層の働きかけや工夫により、運営推進会議がさらに充実したものとなる様に期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通じて、意見や助言等をいただき、指導を受けている。また随時不明な点があれば、市の高齢者福祉係・介護保険係に相談している。	三次市の委託による事業所運営故に、相互に緊密な協力関係にある。この度「布野安心ネットワーク会議」が立ち上げられて、町ぐるみ（住民も事業所も）官民一体となってお互いに連携を強め、共助体制の構築を推進されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束を認めないケアに取り組んでいる。研修等に参加できるように取り組み、職員も意識している。玄関も日中は鍵をかけていない。</p>	<p>研修や介護関係のニュースについて職員間で話し合い、意思の統一を図り、「身体拘束をしないケア」は当たり前と云う風土づくりに取り組んでいる。又、日々のケアにおける気付きは、お互いに確認し合い、最適な方法を模索して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修する中で、常に高齢者の虐待防止に努めている。管理者は常に利用者の表情や身体状況を確認するなど、異変に気付くようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等で必要性を学び、伝達等で周知している。また家族会で必要性を伝えているが、今現在は、必要な方がいないので、支援していない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、しっかりと内容を説明し理解を得ている。独自に説明チェック表を作成し、説明に漏れがないように努めている。また不明な点があれば、いつでも連絡してもらうようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>施設入口に意見箱を設置していることや、重要事項等に明記し、掲示板で公表していることを説明している。年1回の家族会でアンケートを実施し、家族と意見交換を行っている。</p>	<p>家族からの意見や要望は、殆どが面会時に寄せられている。また、ケアプラン作成時や、年1回開催される家族会、電話での意見聴取を図ると共に、毎月の便りで利用者の暮らしぶりを伝え、意見等が出し易くなるよう工夫して、何でも思った事が言える信頼関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	機会あるごとに、朝礼や部署会で職員の意見を聴き、改善に取り組んでいる。	自由闊達に自分の意見が述べやすい環境づくりに、お互いが配慮し、その都度話し合いが行われている。また、朝礼や月1回の部署会で意見交換が行われ、組織の一体感と方向性の一致を図っている。職員から、有給休暇についての意見があり、年間の有給休暇取得計画を作成して、全職員が公平に有給休暇を取得できるよう、年間計画が作成された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	6ヶ月に1度、人事評価制度を行っている。自己評価をし、上司が評価し、また本人と面接を行い、賞与に反映している。半年ごとに目標を立て、質の向上に努めている。資格取得者には一時金を支給したり、法人には託児所もあり、働きながら子育てをする環境が整えられている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回以上は法人内で研修を実施し、個々に応じて、他の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人と姉妹法人との連携による看介護合同研修会を開催して、交流を深めている。また主任・相談員等による会議にて、情報の共有を行っている。他事業所とは個々に情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接時に、本人の要望や不安なこと等を把握し、また関係機関からの情報収集を行っている。入居時には、本人が安心して生活できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>見学や契約時に、利用内容の説明を行い、そこで家族が不安なことや、不明な点を聞きだしたりしている。いつでも連絡下さいと話をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族・本人の困っていることや、不安なことを把握して、介護計画を作成。その後、介護計画を説明し、同意を得ている。家族。本人の不安を取り除き、安心して生活してもらえるよう対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>掃除や料理を手伝ってもらっている。本人さんの身体状況によって、できることはしていただき、コミュニケーションを図ることにより、信頼関係を築く努力をしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>月1回便りで、本人の状況をお知らせしたり、来訪時に利用者の生活状況説明し、情報交換を行い、コミュニケーションを図り、支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族・知人等の来園時、コーヒーやお茶を提供し、ゆっくり落ち着いて話ができるよう努めている。知人等への施設側からの働きかけはあまりしていない。</p>	<p>家族や友人・知人が訪ねて来られた時の対応に重点を置き、度々訪問して頂けるような配慮や、手紙を出す手伝い等を行っている。馴染の場所へは、家族の協力や、誕生日に利用者が希望される場所にお連れする等して、馴染の関係が保たれるよう支援している。施設としては、馴染の関係を過度に刺激して、利用者の気持が高揚しないよう留意されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	デイルームにて座る位置を工夫したり、レクリエーション等で、みんなが楽しみ関わられるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院時は、週に1回以上は面会に行き、状態把握に努めている。他施設入所された場合も、面会やその施設担当者から状況を聞いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に行う行事以外は、読書・塗絵・ちぎり絵・テレビ鑑賞等、自由な時間を過ごせるようにしている。また会話の中から本人の意向を把握し、その人らしい生活を支援している。	担当職員が中心となり、日々の関わりを通じて、利用者の思いや意向の把握に努めている。午後のティータイムでの語らいや、入浴時の会話は利用者の気持・思いを察知する絶好の機会となり、表情や視線を注意深く観察して、利用者の真意・願いを汲み取り、記録に残して、職員間で共有できるように取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面接時に生活歴の把握を行うが、十分でないため、また後日、家族の来訪時に出来るだけ聴取するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家族・本人の面接や会話など、日々の暮らしの中から、個々に応じた趣味・特技を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画を作成するときは、家族や本人の希望等を聞き、職員間でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。2回目以降も同様にし、モニタリングを基に介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画の作成は、利用者・家族・医師等の関係者の意見を参考にして、ケアマネージャー・担当職員・当日出勤の職員の間で話し合わせ、計画作成が行われている。6か月ごと、あるいは利用者に変化が見られた時に、上記のメンバーで話し合い、現状に即した計画の作成が行われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>独自の生活記録簿に、日々の様子を記入することにより、職員間の情報を共有し、介護計画等の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>担当者が個々の内容を常に把握し、要望・体調管理を配慮しながら、柔軟な支援をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議で意見を聴き、ボランティアや民生委員、消防機関等と協力しながら支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>家族の了解を得て、認知症専門医の定期受診をし、症状によっては他の医療機関への受診の支援をしている。</p>	<p>法人と関係深い医療機関（神経内科・内科・歯科）が協力医となっている。利用時に、かかりつけ医として当医療機関に変更し、職員が定期受診に同行している。訪問看護も月1～2回来所され、休日、夜間は救急病院を利用して、適切な医療が受けられるように支援されている。専門医については、家族対応となっているが、臨機応変に対応されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>定期受診をする医療機関の看護師が、健康チェックを行っている。また特変等があれば電話連絡を行い、指示を仰いだりしながら、健康管理に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院者がおられる場合は、お見舞いに行くなどして、主治医や看護師から状態の把握に努めている。また医療機関の相談員と情報交換を行いながら、退院時に備えて連携している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、看取り指針について、入所時に説明している。また主治医等と相談しながら、全員で方針を共有していくことを説明している。</p>	<p>利用時に、利用契約書の第11条「看取りの指針」について説明し、理解と納得を得るようにしている。これまで看取りは未経験で、重度化された方については、医師の意見に従って協力医へ転院されている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>転倒防止などは、カーペットやマットを敷くなどして工夫し、誤薬防止は職員が直接手渡しして確認している。緊急時のマニュアルを確認しておくよう、説明している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>火災訓練（避難訓練）を実施し、避難場所等の確認を行い、運営推進会議などで協力を依頼している。</p>	<p>年2回の火災訓練（うち、1回は消防署参加、及び夜間想定）が実施されている。社内連絡網や役割分担についても明確にされ、隣接の社協の協力と近隣の住民の協力も得られている。特に除雪については、社協と三次市からの援助・協力があがる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議等でプライバシーの確保や、声掛けに気を付けるよう心掛けている。	「人格の尊重とプライバシー保護」に関しては、社内研修と先輩職員の指導により、その徹底が図られている。利用者には必ず「さん付け」で呼び、個室・浴室・トイレ等の入室時は、ノック・声掛けを励行し、羞恥心を覚える様な事については、周囲に細心の配慮を行うよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分で決めて、納得しながら暮らせるように支援をし、自己決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	定期的に行う行事以外は、個々にあった自由な時間を過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人に合った服装を重視し、常に清潔にした着やすいものを身に付けてもらっている。また出張理容訪問により、頭髪の乱れにも気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	園の菜園で四季に応じた野菜を栽培し、畑でできた喜びや、調理の下準備や配膳・後片付けをしてもらいながら食事の楽しみを実感してもらうようにしている。	職員が考えたメニューに従って配達された食材や菜園の収穫物を使い、利用者と一緒に下準備・調理を行っている。四季折々に「おせち・ちらしずし・流し素麺」等を、また、利用者の誕生会、敬老会等の特別食や桜時分には、裏庭にテーブルを置き、料理や場所に変化を持たせ、食事が楽しいものなるよう努められている。来年度は、外食に加えて「お好み焼き」等のデリバリーの活用も計画されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスを考えた献立表を作成し提供している。また食事の記録により個々に応じた量や，一日を通じお茶の時間を決め，水分補給を習慣化している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後個々の状態により，口腔ケアを実施している。確認しながら介助を行い，清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を作成し，個々に応じての排泄時間には，トイレ誘導を行う支援をしている。</p>	<p>排泄に関しては，殆どの利用者は自立，又は意思表示が可能で，1名の方が排泄介助を要する状況である。従って，現状を維持すると共に，排泄時の各利用者の特徴・性向を把握し，適切な誘導によって，おむつやパッドに頼らない排泄支援に取り組まれている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>予防と対応のため，散歩や飲食物の工夫等で便秘解消に取り組んでいる。また排便チェックを行い，場合によっては主治医・看護師に相談し，薬を服用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週の曜日で入浴日を決めるいるが，本人の体調や希望等で，入浴時間・日を変更することで，楽しんで入浴してもらっている。</p>	<p>週2回，1日3名，午前10時～お昼の間と午後14時～16時の間の2パターンの入浴スケジュールが立てられ，利用者の体調と希望に合わせて柔軟に対応し，入浴が楽しめるよう努められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や体調確認により、日々安心して気持ちよく過ごせるようにし、また穏やかな時間を共有し安眠への支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用、用法等理解しているが、時により主治医や看護師に再確認するなど、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の生活歴により、農作業や掃除・レクなど支援をしている。また嗜好品も、利用者個々の要求や家族の希望を聞き、その人にあったものを購入し、日々の生活をしていただいている。趣味なども個々に応じ、居室・食堂などで楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブ等で戸外に出かけられるよう計画し支援している。また年間を通じ春や秋はドライブを実施し、食事や景色を楽しんでもらっている。	季節に応じて、近隣の散歩や広い裏庭の菜園の草取り等をして、外気浴を楽しみ、年間行事に従って、花見・苺狩り・紅葉狩りに出かけたり、観光名所や道の駅等に、外食とドライブを兼ねて出向く等、利用者の希望を取り入れた外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望や管理能力を家族と相談し、支援している。購入時は、できるだけ本人に支払ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>要望があれば、電話や手紙のやり取りができるように、電話で確認したりしている。利用者が家族に電話をかけることが特に多い。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室や共用部分は常に清潔にし、居心地よく過ごせるようにしている。季節感のある花や置物等を飾って、工夫している。</p>	<p>共用空間は、全てゆとりあるスペースが確保され、浴室も1ユニットに2カ所設けられている。ソファもリビングと廊下の2カ所に在り、その時々で気分と仲間と過ごしたり、一人又は気の合う者同志で静かに過ごす事も出来る。季節に応じて、雛飾りや花等がさり気なくあしらわれ、清々しい日々が過ごせるようになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>広間以外にもソファを置くなどして、居室以外の場所でも過ごせるよう居場所づくりの工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家族と相談し、馴染みの物を置くなど、個々の居室に配慮している。</p>	<p>押入れ、洗面台が備え付けられた6畳のゆったりとした個室には、ベッド・エアコン・整理ダンス・消臭剤が事業所で準備されている。清掃の行き届いた各部屋には、利用者の希望に沿って、テレビ・炬燵・仏壇・家族の写真等々が持ち込まれて、寛いだ日々が送れるような環境が整えられている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立した生活が送れるよう、廊下やトイレに手すりが設置してあり、安全に歩行できるようにしている。居室やトイレが分かるように、ネームプレートを使用している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふの慈照園

作成日 平成28年3月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議へ家族、利用者の参加がない。	家族または利用者に運営推進会議へ出席していただく。	家族へ趣旨を説明し、運営推進会議への出席を依頼する。会議形成だけでなく、行事等での会議開催を検討。	1 2ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。